

江差線10駅 最後の夏

4 神明

■メモ 上ノ国町神明、無人駅として1957年1月25日開業。稲穂峠を越える吉福-神明間は道南のJR路線で一番の急勾配。最大では、千石行って25%上がる25%（パーミル）という鉄道としてはかなりの急坂もある。木古内駅から18・6%。

列車のディーゼルエンジンがうなりを上げ、深い森の中の急勾配を上っていく。木古内町から稲穂峠を越えて上ノ国町に入り、やや下った場所に神明駅があった。道内でも珍しい木造の駅舎と板張りのホーム。駅は1957年の開業時から残る。昭和の時代を感じさせる駅だ。江差線で最も山あいに位置していることから、鉄道ファンには「秘境駅」として知られる。



板張りホーム 昭和の趣



木造駅舎と板張りホームが鉄道ファンを引きつける神明駅

周囲の森でセミが大合唱。アンもたまにいます。横浜市（16）は、江差線的全駅めぐりの中を神明駅にたまたまの会社員松原政明さん（44）の途中で下車した。「板む。バアア」という響きは神明駅2度目の訪問。前張りのホームに触った感笛とともに、列車が森の中を撮影のため車で訪れながら進む。周りの風景ともからこつぜんと現れた。1 た。「全然来た気がしなかった」と笑顔を見せながら降りてきた。今回はぜひ列車から見た。神明駅を通過する列車もの中へと走り去った。人け降りてみたかった。駅で神明駅を通過する列車も無いホームに再びセミののんびり過越し、「周囲にあるため、ひとたび下車すれが響き渡る。何も無いところが魅力的。ると、時間帯によっては次

神明地区は19世帯33人が暮らす静かな集落。ふだんは神明駅で降りる人に話した。札幌西高2年生で同高鉄の旅行者が降り立ち、どんな味を引かれ降り立つ鉄道ファン。道研究部長の江口航平君に話した。内一江差間廃止まで何人な思いにふけるだろうか。